



Lead【ニュース】



◇芋掘り&焼き芋◇ 10月31日(火) ※10月25日(水)より延期

秋晴れのもと、中庭の畑でサツマイモ掘りを行いました。“芋を掘る”だけではなく、「芋のつるでクリスマスリースが作れないか？」と考えていたスタッフ。その考えから、今年は芋のつるを切る作業から始めました。

今年は日照不足の影響もあり、畑の芋のつるの伸びが芳しくなく、芋の数や大きさに少々不安はありましたが、当日の畑では、お母さんがハサミで切った芋のつるを子どもが引っ張ったり、土遊びをしたりと、子どもたちも畑の作業を楽しんでいました。「大きな芋が掘れた」「こっちには芋がないよー」など、宝探しをする

かのように親子で芋掘りを楽しむ姿も見られました。芋が全く採れなかったうねもあり、スコップを使って掘り起こして探す様子をじっくり見ていた子が、自分の手でも掘り起こそうと一生懸命頑張る姿も微笑ましかったです。また、アオムシ・テントウムシ、カナヘビを見つけ、大人が「触れないよ」というなか、興味津々に虫を触る子もいました。

先日さんから頂いたサツマイモと、みんなで収穫したサツマイモをタライの水でよく洗い、近くのお母さんと一緒にアルミホイルで包み、竈に入れて焼いていきました。タライで芋を洗うことに張り切りつつも、水に触れる(遊べる)ことに喜んでいました。途中、Mさんから「サツマイモに芽が出ているんですけど、毒はあるんですかね？」との疑問があり、スタッフがすぐに調べると毒はないとのことで、水耕栽培をしようとなりました。焼き上がりを待つ間に、中庭の柿・みかんを食べながら会話を楽しんだり、芋のつるでリースを作ったりと思い思いの時間を過ごしました。



竈で焼き上がったサツマイモは安納芋だったので、実が小さくても中がホクホクでとても甘く、1歳の子どもたちがおかわりする程好評でした。今年の収穫は、予想より数は少なかったものの、出来が良かったと思います。

季節が早々と移り変わっていくなかで、こういった季節の催しを行うことは、一つの節目にも感じられます。生きていくなかで私たちが食物を口にするまでには、苗(種)を植え・育て・収穫するという過程があります。今回の体験は、お母さんと一緒に芋のつるを切ったり、引っ張ったりするなどという畑の作業は、食物を育てる過程のほんの一部分にすぎないかもしれませんが、けれども、きちんと整地された畑の環境でただ芋を掘るだけでなく、私たちが口にする食べ物には人の手と自然の力が加わっているのだと感ずることが、食育に繋がってくるのではと感じました。



◇ 学生企画 ◇

Episode【事例】

■ 学生ひろば「あそび隊」第1回・第2回報告 ■

後期になり、石井ゼミの学生が主催する「あそび隊」の活動が始まりました。この活動は、今年度で4年目になります。この活動は、そもそも、①保育実習等では保護者や未就園の子ども(あるいは保護者+子ども)とのかかわりが少ないこと、②実習は、どうしても「従属的」「迷いある」かわりになりやすいことから、時間が比較的柔軟に取りやすいゼミ(卒業演習)の中で行っています。*通常のゼミは火曜日の3限(13:30-15:00)となっており、学生の活動の日は、時間をフルに使って行います

今年度のゼミ生は、2年生が15名います。各会2人ずつリーダーとなり、主活動を考え、計画書を書き準備等の指揮をとります。はじめの2回は、来る親子の数の予測も活動内容の予測もつかず、計画の立案すら、ままたらない様子でした。しかし、なんとか活動を終え、16:30から行っている振り返りの会の時には、反省をもとに次への活動の目標を確認しています。

第1回 10月10日(火)「秋の木の实を使った制作」



絵本を読む



秋の木の实の制作



中庭でのひととき

第2回 10月24日(火)「ハロウィーンの制作と遊び」



小さな赤ちゃんを眺める



かぼちゃの入れ物の制作



ハロウィーンのくす玉

なお、この活動は「学生の学びのため」という側面が強いので、当日の参加費は基本的に無料とさせていただきます。活動の際にはVTRも撮らせてもらい、のちの振り返りの際に活用しています。また、取り組みをまとめる際にも使わせていただいております。短大としての1つ特長として、こうした学生による企画を実施しておりますが、未来の保育者の育成のため、ご協力ください！(石井)

Episode【事例】

■ 学生がたいむに遊びに来る意義とは ■

先日、たいむ利用のお母さんより、「学生さんがたいむに遊びに来る意義とはなんですか?」「学生さんが遊びに来て、いつも遊んでくれるのは助かるんですけど、ふと思って…」という質問を受けました。確かに、授業で来室するのは勉強のためだと分かりますが、「短い休み時間にもわざわざ顔を出して、親子やスタッフに挨拶をしに来るのはなぜ?」「休み時間や空き時間に自らたいむに来るのはなぜ?」「どういう思いで学生が来室しているの?」と気になるころだと思いま

す。私が日々感じていることは、どの学生も『子どもが好き』ということです。保育の短大ですから、当然と思われると思いますが、たいむは学内にある“ひろば”なので、スタッフや学生自身も難しさを感じることもあるのです。

今年の1年生の学生たちは、毎日のように入れ替わりで遊びに来ることがあります。もちろん2年生の来室もありますが、主に男子学生の方が多く感じています。たいむの開室時間外になると、女子学生が来室することが多々あります。女子よりも男子の方が、よい意味で『空気』が読めず、お母さん方・子どもとのかかわりが割とスムーズにいくのではないかと感じています。しかし、女子の方は、“お母さん(保護者)＝同性”であるため、「どんな風に自分自身を見られるかが不安になる」という声を聞いたことがあります。

千葉明德短大の学生たちは保育の勉強をしていますが、実際に乳幼児とかかわる・その保護者とかかわる機会はとても少なく、特に保育実習の際には保護者とかかわりは全くありません。少し勇気を出して、たいむに遊びに来る・廊下や図書館で子どもたちに声をかけるということは、学生たちにとってはとても勇気のいる行動だと思っています。スタッフ自身が学生の立場であったのなら、緊張や不安などで自分から親子が過ごす場所(たいむ)に行こうとは思いません。

お母さん方・子どもたちにとっても親しまれている1年生Sさん(一度社会に出て、学び直して入学した男性)は、お母さん方に話をする、会話をするということが本当に緊張するとのこと。お母さん方から呼びかけて頂けた時でない、自分からは話ができないようです。ですから、たいむに遊びに来る学生、そうではない学生(室内には入って来ない)も、子どもたちとのかかわり(を通して)⇒お母さん方と少し話をする⇒次に会った時に挨拶を交わす⇒顔や名前を覚えてもらうなど、日々の小さな積み重ねがどんどん大きくなり、それぞれの自信に繋がっていきっていると実感しています。しかし、授業のように事前に準備をして企画当日に臨む活動とは全く異なり、自由な環境(遊ぶ・会話を楽しむなど)であるだけに、ハードルは決して低くはありません。

子どもと遊ぶことで、子どもたちの個々の成長や興味、関心の違い、かかわり方や声かけなど様々なことを学んでいけると感じています。また、人間ですから、子ども一人ひとりが違うように、保護者一人ひとりも違いますし、抱えている悩みなども十人十色だと思います。同時に、“たくさんの人たちとかかわることの難しさ”“保育者は子どもと遊ぶことだけが仕事ではない”“子育ての大変さ”“子どもたちの成長を保護者やスタッフと喜ぶ”など、授業ではないこの環境で、少しずつ認識しているようです。たいむで学生がお母さん方とかかわりをもつということは、大人としての社会性を身につけられる重要な場所だとも感じており、身近な大人として、生活態度の注意やアドバイスをしてくださることもあります。スタッフからではない、お母さん目線のアドバイスはとても身に染みるようです。

女子は「たいむに行きたいけど緊張する」「どのタイミングで遊びに行けばいいのか分からない」と、スタッフの所にやってきましたが、そういった時に「いつでもいいよ」「お母さんがいて緊張するのは当たり前。だから、子どもと遊ぶことを楽しめばいいよ」などと話しています。スタッフが仲立ちをすることで、少しでも安心して足を運びやすく出来るように心がけています。授業での体験から学ぶこともたくさんありますが、授業とは違う角度からの学びもあり、学生たちの姿から、自分自身の姿を振り返るよい時間にもなっています。

(本田)

Report 【報告】

◇ 片栗粉であそんだよ！ ◇ 10月4日(水) 10:00～12:00



白い物(片栗粉)が目に出ると、不思議そうな様子の子もたち。自分から怖がらずに片栗粉に触る子、お母さんが触る様子をじっと見ている子、お母さんと一緒に少しずつ感触に慣れていく子と、それぞれの表情や仕草が可愛らしかったです。

粉のまま砂あそびのようにキュッキュッと遊んだり、少しずつ水を足して粘土あそびにしたり、トトロにして手のひらか



ら垂らしてみたりと遊び方がたくさんありました。特に、水で少し固めて作った団子をギュッと握って、手を開くとトロトロと溶けだしていく様子や感触に大人も子どもも不思議な体験だったようで、「大人の方が夢中になって遊んじゃうね」とお母さんたち。

食紅で“赤・青・黄・緑”の色を付け、色を足していくことで遊びに変化をもたせてみました。そうすることで、白いままでは自分から触れようとしなかった子が、片栗粉に色が付いたことで自ら桶の中に手を入れて遊ぶようになりました。また、“色を足すと色が変わる”と、小さな子ながらに気がついたようで、どんどん色を混ぜていき、出来上がった色に満足そうな子どもたちでした。

◇ リズム室あそび ◇ 10月19日(木) 10:00～12:00

雨が降る中、10組22名の親子の参加がありました。「天気が悪い時はどこへ行こうか悩む」「天気が悪い時ほど、子どもが体力を持て余して困る」という声が聞こえるなか、子どもたちはとても元気いっぱいでした。

今月はタンバリンを用意し、ジャンプをしてタンバリンにタッチをする遊びを取り入れました。特に3歳の子どもたちが興味を示し、何度も繰り返し楽しむ姿が見られました。タンバリンにタッチしたい➡ジャンプする➡出来ない➡何度も挑戦する➡少しタンバリンに触れた！ というように、嬉しそうな表情で大人に報告をする様子に、子ども自身に達成感があったようです。楽しそうに遊ぶ3歳の子どもたちの様子を見ていた、1歳・2歳の子どもたちも「やりたい！」と、同じように挑戦していました。タンバリンを持つ手に高低差を付けることで、「もっと高くして」「もう少し小さくして(低くして)」と、更に楽しんでいました。他にも、小さなカラーボールを投げて玉入れをしたり、転がして遊んだり、棒にぶら下がって遊ぶ子どもも見られました。

とても雨が降り、この秋一番の冷え込みという一日でしたが、リズム室の中でたくさん汗をかいて遊んでいました。



* カラーコーンにボールを入れて、どうやってボールを取るか思案中

info【情報・お誘い】

◆ 中学生と一緒にあそぼう！ ◆

11月7日(火)、8日(水)、9日(木)に、おゆみ野南中学校の2年生3名が職場体験に来ます。

《中学生の職場体験の目的》

* 中学生の職場体験の目的は『キャリア教育』の一環として、実際に働く体験を通し、働く人たちの喜びや苦労を実感する・働く人々とのふれあいを通して、社会人としての責任やマナーなどを身につける・体験を通して、職業についての具体的な内容や職業生活について理解を深めるとともに、生徒自身の進路選択に役立つ。(中学校より)

《たいむで職場体験をする意義》

* 本来は中学校からの職場を体験することを目的とした依頼ですが、たいむでは少し視点を変え『次世代の子育てをすすめる人の育成』という別の意味ももたせています。
* たいむに来ている皆さんは普段のまま構いません。普段の『生の子育ての様子』や『子どもを育てることは大変だけど楽しいよ』という雰囲気を中学生に伝えていただければ有難いです。

◆ 附属幼稚園の園庭であそぼう！ ◆

千葉明德附属幼稚園の休園日に、園庭で思いきり遊びませんか？



【日時】 11月8日(水) 10:00-13:00 ※雨天中止

【利用料】 100円(保険料)

※園庭にて受付

※半年・年間会員の方はいただきません。

※会員でない方の参加も可能です。

【持ち物】 帽子・着替え・水筒・レジャーシートなど

※貴重品の管理などは各自でお願いします。

※昼食は11:30頃から園庭で食べられます。

◆ リズム室であそぼう！ ◆

巧技台やフープ、すべり台など、身体をたくさん動かしてあそびましょう！

【日時】 11月28日(水) 10:00~12:00

【場所】 短期大学2号館 リズム室

【参加費】 一日会員:100円

※ たいむが初めての方も可能です。

【持ち物】 着替え・タオル・飲み物など



◆ チューリップの球根を植えよう！ ◆ 春に咲くチューリップを楽しみに待ちませんか？ ♡



【日時】11月22日(水) 10:30~

【場所】 短大 中庭

【持ち物】 必要であれば軍手など ※汚れても良い服装をおすすめします

◆ まんぷくCafé ◆ 今月は、日程の都合で、第4週！



今月は、11月24日(金)16:00-20:00を予定しています！

メニュー・詳細は Facebook にてお知らせします

参加費

大人 300円 子ども 100円



1. 11月の行事予定

- ・中学生職場体験 11月7日(火)~11月9日(木) 《おゆみ野南中学校2年生3名》
- ・園庭開放 (附属幼稚園の園庭を借用)
- ・チューリップの球根植え (球根の購入について・中庭の花壇の土づくり)
- ・リズム室あそびの曜日の検討について

2. その他

- ・中学生の職場体験の時に、模造紙などでクリスマスツリーを製作してもらってはどうか？
 - * ツリーだけを作ってもらい、好きな時に飾りを作り貼っていく。(丸シールや両面テープなどを使用する)
 - * 親、子どもとのかかわりの他にもスタッフの仕事があることも解ると思う。
 - * 子どもたちが楽しんで製作(物を作る・貼る・描くなど)している様子も見られると思う。

・芋掘りで切った芋のつるを使って、クリスマスリースを作ってみてはどうか？(スタッフ案)

・ママ企画の忘年会を今年も行うか？ ➡ もし今年も企画をするのならば、**予約制**にする。

【スタッフより】

- ・昨年はスタッフの「クリスマスシーズン、何かやりたいことはありますか？」という呼びかけに、有志のお母さん方が計画・準備・当日と企画を実行されました。
- ・今年は今月の始めにはポスターで呼びかけ、第2回が行えたらと思います。

- ・予約なしで当日来た人がいた場合、お気持ちとしてまんぶくCAFEの貯金箱に100円程度入れてはどうか？
- ・各家庭で、料理を一品持ち寄る(食事担当などの負担を軽減)
- ・プレゼントは各自持ち寄り、交換してはどうか？
- ・昨年は忘年会までに日数がなく、プレゼントや買い出しの準備などが大変だったので、開催するのであれば早めに呼びかけが必要では？

次回は、11月下旬を予定

・12月の行事予定などを検討

※ 今月より、石井ゼミ生(2年生)が2名ずつ、毎月の運営会議に参加することになりました。

会議での保護者とスタッフの意見交換の様子など個々にメモを取っていました。どのような雰囲気、どのような意図があって企画を立てているのかなど、子育て中のお母さんたちの生の声や現状を知れるよい機会でもあります。

* たいむでは、本来、**利用者と一緒に創る広場**を目指しています。

今年度より、利用者の視点をさらに入れていきたいという想いと、広場の内容をもっと利用者に可視化するために、「たいむを育てる会(運営会議)」を開催しています。

(運営委員は、2月から募集をかけ、立候補してくださった6名の利用者の方です)